

「共に感じよう 自然に学ぶ子どもの育ち」

○発表者名 社福) あすなる会 白兔保育園 副主任保育士 松浦美保子

1. 問題提起

白兔保育園は、平成29年に「とっとり自然保育認証園」に認定され、地域の恵まれた自然環境を活かしながら、自然と関わる「直接体験」を大切にして保育に取り組んできた。経験の積み重ねから、子どもたちの自然に対する興味は高まってきており、積極的に自然に関わろうとする意欲が育ってきている。

子どもたちの育ちを保護者と共有していきたいが、新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者の園内への出入りや行事への参加が減り、保育士と保護者の対話が少なくなっている。その結果、子どもの姿や園での取り組みの様子が保護者に伝わりにくくなっている。このコロナ禍で園と保護者の繋がりを深めていくためには、どのような工夫ができるのか検討し、実施していく必要があると感じている。そして、本園が大切にしている自然保育を通して、子どもたちにどのような学びや育ちがあるのか保護者と一緒に感じ、成長を喜び合い、保護者を巻き込みながら更なる遊びの充実を図っていきたいと考え、研究に取り組むことにした。

2. 目的

地域の自然環境を活かした保育を充実させ、子どもの学びや成長についての発信の仕方を工夫し、保護者と共有していく。

3. 方法

- ①子どもの心が動く自然体験活動を計画し、繰り返し遊び込んでいけるような環境構成や保育士の援助を実施していく。
- ②ドキュメンテーションを作成し、園内研修で話し合い、子ども理解を深めたり、保育の振り返り、見直しを行ったりしていく。
- ③ドキュメンテーションや写真のスライドショーなど、園での様子を可視化して保護者に発信し、共有していく。また、アンケート調査を行い、保護者の意識について把握していく。

4. 成果・課題

(成果)

子どもたちの活動の様子についてドキュメンテーションを作成し、園内研修で振り返りを行った。他クラスの保育士も活動のイメージが湧きやすく、子どもの姿を様々な視点で読み取ったり、環境構成や保育士の援助の仕方について検討したりすることができた。

また、年に2回行ったアンケート調査で、保護者の意識の変容を把握することができた。ドキュメンテーションの掲示や写真のスライドショーを行うことによって、子どもたちの遊びの過程、学びの様子、保育士の思いなどが可視化され、保護者に伝わりやすかった。園での取り組みを評価してもらったり、親子で一緒に自然体験活動を楽しむ家庭が増えたりした。

(課題)

自然体験活動に対する保護者の関心が高まり、園への取り組みに対しても期待が大きくなっている。引き続き、積極的に自然と関わる直接体験を取り入れ、子どもたちの成長を促していきたい。また、ドキュメンテーションを使った園内研修の充実を図り、様々な視点で子どもの様子を見取っていくことで、保育士の“子どもを理解する力”を養っていきたい。

遊びの様子や子どもの成長を保護者と共有するため、今後も園での様子を可視化して発信し続けていきたい。しかし、ドキュメンテーションの作成には時間がかかり、掲示の頻度が多くないことも事実である。より簡単に作成でき、かつ、保護者に伝わりやすい形式を検討し、現在より頻繁に発信できるように改善していきたい。

参考文献

- 大豆生田啓友・おおえだけいこ（2010）.「日本版保育ドキュメンテーションのすすめ」
小学館

- 鳥取県教育委員会事務局小中学校課（平成 28 年 3 月）
「鳥取県「遊びきる子ども」を育む取組事例集 ～幼児教育・保育の充実をめざして～」